

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	自然は村の宝物！ふるさと“やまがた”魅力発見プロジェクト事業～鳥類編～
事業主体 (連絡先)	山形村 (東筑摩郡山形村 2030-1 ※担当：教育委員会事務局 教育政策課)
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	668,556 円 (うち支援金：501,000 円)

事業内容

地域の大人と時代を担う子ども達とが協働して自然に関する調査等を実施。子ども達の村の豊かな自然への興味・関心を深め、地域への愛着と誇りの気持ちを高める。また、県内高等教育機関である長野美術専門学校の協力を得て、クオリティの高い啓発物を作成し村の自然の魅力を村内外へと周知する。

- ・Yふるさとレンジャー隊員の募集 *4月～随時
- ・バードウォッチングによる鳥類調査 *5～11月計7回
- ・長野美術専門学校デザインワークショップ *10、11月計2回
- ・地域の大人と協働した自然に関するワークショップ
 - ー村内ビオ・トープでの水辺の生き物観察会 *7月1回
 - ー巣箱づくり&設置ワークショップ *11、12月計2回



【バードウォッチング（鳥類調査）の様子】

【目標・ねらい】

- ①子ども達の村の自然への興味・関心の向上
- ②地域の大人や学生との関わり
- ③情報発信ツールの増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①Yふるさとレンジャー隊員とシニアサポーターによる次年度テーマ決めの会では、子ども達から自発的に様々な意見が出され、自然に対する視線の広がりがみられた。また、来年度活動への期待やレンジャー募集方法への提案等もあり、本事業自体に対する興味・関心の高まりを実感している。
- ②シニアサポーターをはじめ、地域の大人が積極的に関わりながら子ども達と協働する姿が事業全体をとおしてみられた。
- ③支援金を活用して自然科学系文化財を発信する新たな啓発ツール（パンフレット）を作成することができた。

※自己評価【 B 】

【理由】

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてスケジュールに遅れや中止があったものの、地域の大人や専門家の協力を得て、一定の調査やワークショップを実施することができた。よって、予定していた効果は得られたものとする。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本事業は昨年度の～樹木編～に続き、同プロジェクトの～鳥類編～として実施した。次年度以降もテーマを変えながら村内の自然について偏ることなく調査することを予定している。今後はYふるさとレンジャー隊の隊員やシニアサポーターの参加者数を増やししながら、村内の自然に興味・関心を持つ子ども達や関わる地域の大人の数を増やしていきたい。また、今年度は公民館「おやじ塾」とのコラボワークショップも取り入れ、本事業での活動を村内の幅広い方々へ周知することも積極的に行った。この取り組みについては、参加者のなかでも概ね好評であったことから、コラボする対象を増やしながらか引き続き継続していきたいと考える。次年度についても長野美術専門学校との連携については確認済みである。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある